

普及・教育・研究活動報告（2017年度）

1. 2017（平成29）年度の普及活動

1) 展示・情報公開

a. 埋蔵文化財調査部門サテライト館の公開

埋蔵文化財調査部門では、総合博物館サテライト館のひとつとして展示室を整備し、構内遺跡で出土した資料を中心に展示公開を行っている（開館日：月曜日～金曜日 祝日および12月29日～1月4日を除く 開館時間：10時～17時）。2017年度の来館者は779名（前年比1.64）であった（2007年5月のリニューアルオープンからの延べ来館者6,246名）。1年を通してみると、4月と5月、6月にそれぞれ教養ゼミの広大生が56名、47名、28名の計131名、7月は東広島市との共催事業で67名、8月はオープンキャンパスで61名、7月と8月に実施した考古学ワークショップ開催期間に計199名の多数の来館者があった。団体見学としては、東広島郷土史会・山城探訪会（9月30日：23名）、郷田小学校（12月1日：78名）、ディスカバー高屋（2018年3月7日：15名）などの受け入れをおこなった。

b. 第12回ふむふむギャラリー（第1期）「戦争を見てきた食器たち」（2017年7月6日～8月5日）：瀬野公民館との共催

震地区や翠地区で出土した防衛食容器や統制食器などの近代遺物の展示を瀬野公民館（広島市安芸区）において実施した。学外施設における展示は、2015年度に舟入公民館から同様な内容で巡回展示を開始しており、延べ10館目となった。来館者数は877名であった。期間中、展示解説（7月20日）を1回実施した。



写真40 瀬野公民館展示の様子1



写真41 瀬野公民館展示の様子2



**戦争見てきた
食器類を展示**
あすまで安芸区

太平洋戦争中のものと思われ血や茶わんなどを通して当時の人々の営みを紹介するロビー展「戦争を見てきた食器たち」が、広島市安芸区の瀬野公民館で開かれている。5日まで。

物資不足の際に缶詰の代わりになった磁器製の防衛食器器Ⅱ写真Ⅱや、皿や茶わんといった軍用食器など割れ残ったものも含めて計31点が並ぶ。これらは、広島大学総合博物館が同大学霞地区(広島市南区)と翠地区(同)で進めている発掘調査で出土した。霞地区には弾薬の生産などを担った旧陸軍兵器支廠、翠地区に

は旧制広島高校があった。ロビー展は無料。問い合わせは同公民館(082・894・8006)へ。(高橋健人)

写真 42 瀬野公民館展示の朝日新聞掲載記事

c. 第12回ふむふむギャラリー(第2期)「掘り出された広島戦争遺跡」(2017年8月12日～9月3日)：牛田公民館・広島市文化財団との共催

広島市内公民館施設での近代遺物の展示は、瀬野公民館に続いて牛田公民館(広島市東区)においても実施した。共催事業として近代遺跡に係る講座を開催し、同時に展示解説も行った(8月21日)。期間中の来館者数は1,212名であった。

掘り出された広島戦争遺跡

8月21日(月) 10:00～11:30
「広島大学境内から出土した遺物語る戦時中の暮らし」
講師：広島大学総合博物館東文化財団歴史部門 研究員 石丸 恵子 さん

8月28日(月) 10:00～11:30
「広島城二の丸発掘調査と復元」
講師：公益財団法人広島市文化財団文化財課 学芸員 榎本 敬太 さん

●「掘り出された広島戦争遺跡」講師陣展示●
講座の開催に併せ、広島大学学部の敷地内から出土した文化財を中心に、その地理的文化財や縮図等を展示します。また、オンラインイベントとして、講座第一日には縮図による特別展示を予定しています。

■展示期間/平成29年8月12日(土)～平成29年9月3日(日)
■場 所/牛田公民館 1階ロビー

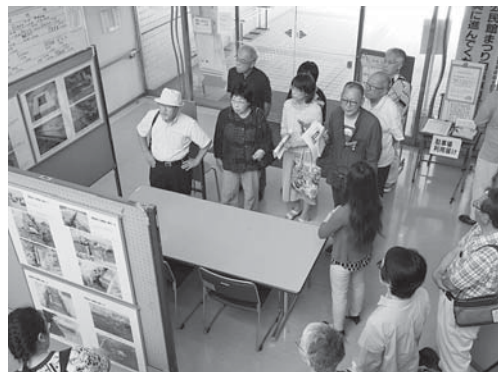


写真 43 牛田公民館講座のチラシ

写真 44 牛田公民館展示解説の様子



写真 45 牛田公民館講座の様子



写真 46 牛田公民館展示の中国新聞掲載記事



写真 47 牛田公民館展示の読売新聞掲載記事

d. 埋文秋および冬のキャンペーンクイズ

展示室の見学の際、資料への理解や歴史への興味を深めてもらうため、展示遺物を見ながら回答できるクイズを作成した。これまで通常の来館者やイベント時にクロスワードパズルを行っていたが、今後はクイズも活用していくこととした。



写真 48 クイズ用紙 (秋)



写真 49 クイズ用紙 (冬)

e. 刊行物

『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第9号（2018年3月刊行）

研究編に研究論文1稿、調査編には「開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要（2015年度）」、普及・教育・研究活動報告編には「普及・教育・研究活動報告（2015年度）」、付編には「総合博物館埋蔵文化財調査部門の組織（2015年度）」が収められている。



写真 50 紀要第9号の表紙

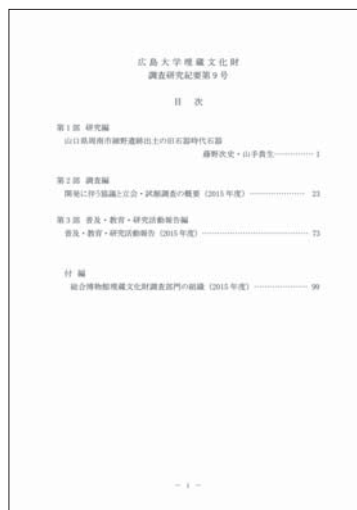


写真 51 紀要第9号の目次

『HUM-HUM』Vol.10への寄稿（2017年7月発行）

広島大学総合博物館のニューズレターに、埋蔵文化財調査部門の2016年度の活動の一部を紹介した。イベントピックアップとして「春のキャンパス遺跡巡り」には、2016年4月に実施した第51回フィールドナビの様子を、また公開講演会「広島大学の自然環境と文化財保護」には、環境講演会と文化財保護講演会の合同で開催した講演会について報告した。また、埋文の発掘この1年において、「2016年度の広島大学構内における埋蔵文化財の調査と整備」についてその成果を紹介した。

e. Facebook・ホームページ更新

調査部門での業務報告やイベント紹介などの情報を迅速に発信するため、2014年7月よりFacebookの運用を開始しており、2017年度も継続してイベント等の情報を発信した。ホームページも引き続き運用している。

2) 調査資料および遺跡の整備・管理

a. 東広島地区：鏡西谷遺跡芝張り整備

実施面積：約 15 m²

実施期間：2017年6月14日～7月10日・11日、9月30日、10月4日

担当者：石丸恵利子・大近美穂

実施内容：2016年度より開始した鏡西谷遺跡での芝（ティフブレア）張り整備において、今年度は種子からピット苗を育て、それらを現地に植え付ける方法で実施した。4月に培養土を敷き詰めた200穴トレーに種子を撒き、約2か月間育てた苗を、昨年度末に芝張りを行ったD地区の北側に続けて移植した。7月上旬にピット苗を追加して作り、9月にはフィールドナビ参加者に、また10月には職場体験の中学生に遺跡整備作業として移植を体験してもらった。



写真 52 ピット苗成育の様子



写真 53 フィールドナビ時の移植の様子 1



写真 54 フィールドナビ時の移植の様子 2



写真 55 中学生職場体験時の移植の様子

b. 東広島地区：鏡西谷遺跡遺構復元整備

実施期間：2018年2月19日

担当者：石丸恵利子

委託業者：中博建設

実施内容：鏡西谷遺跡において、現在道路が走る場所となり、消失したC地区で検出された中世の東西3間×南北2間の掘立柱建物跡の柱穴跡を、E地区南側への擬木によって復元する整備を行った。以下、作業順に整備内容を記す。

① 位置割り出しと整地

設置場所は谷地形の底辺部分にあたり、緩やかに南に傾斜している平坦面で、遺構等は確認されていない場所である。実寸で柱穴跡15本の位置と方向を割り出し、柱穴位置（擬木設置位置）の下の草の除去を行い、平坦に整地した（写真56）。

② スパイラル杭打ち込み

杭径25mm、長さ250mmのスパイラル杭2本を、約140mmの間隔で、地上に50mm程度残した状態まで打ち込んだ（写真57）。

③ 接着剤混合

擬木設置の各位置に、スパイラル杭とコンクリート製の擬木をエキシポコンクリートボンドにより接着させるため、B0メジコンの主剤と硬化剤を1:1で混合して練り合わせ、擬木底部に開けた径40mm、深さ約50mmの穴2か所に詰め込んだ（写真58）。

④ 擬木とスパイラル杭接合

コンクリート製の擬木底部の2穴と地上に出たスパイラル杭2本の位置を合わせて接合し、上面を水平に調整して固定した（写真59・60）。

⑤ 擬木15本の設置

擬木は径270mm、高さ300mmのコンクリート製で、側面と上面に木目や年輪の模様を復元したもので、同様の擬木を3間×2間の12本と張り出し状の施設あるいは庇の柱と考えられる3本の計15本を設置した（写真61）。



写真 56 柱穴跡位置確認作業の様子



写真 57 スパイラル杭打ち込み作業の様子

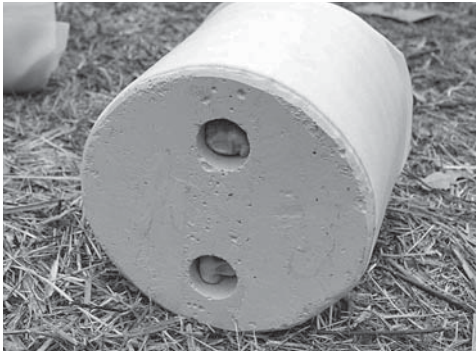


写真 58 擬木接着剤挿入状況



写真 59 擬木設置作業の様子 1



写真 60 擬木設置作業の様子 2



写真 61 擬木設置後全景

c. 東広島地区：鴻の巣南遺跡復元住居改修整備

実施期間：2017年10月30日

担当者：藤野次史

委託業者：中博建設

実施内容：鴻の巣南遺跡の弥生時代竪穴住居跡の復元整備は2013年10月に完成し、公開を行ってきた。復元住居跡は遺構上に約1mの盛土を行って、盛土内に調査時の実測図に基づいて竪穴住居跡を構築し、主柱、梁・桁および垂木・棟などの構造材を組み上げて、住居の骨組みを復元した。構造材は、コンクリート製擬木・金属パイプをボルト留め、溶接によって固定した。構造材の接続は蔓等の本来植物の蔓等で固定されていたと推定され、鴻の巣南遺跡の住居についても、ボルト等の目隠しの意味もあり、構造材接合部に蔦、葛の蔓を巻き付けて材の緊縛状態を表現した。復元から約5年を経過し、大半の蔓が劣化して断片化し、落下したことから、今年度新しい蔓により修復作業を行った。修復作業は業者に委託し、2013年度に蔓で緊縛した箇所すべてについて、新しいものに取り換えた（写真62・63）。



写真 62 葛蔓緊縛作業の様子



写真 63 蔓取替作業完了状況

d. 東広島地区：保存区の草刈り整備

毎年、東広島地区の遺跡保存区では、東広島市シルバー人材センターに依頼して草刈りを実施している。鏡西谷遺跡、西ガガラ遺跡第1地点、山中池南遺跡第2地点の草刈りを、以下の日程で実施した。また、鏡西谷遺跡では樹木の伐採も実施した。

鏡西谷遺跡 2017年9月14・15・18日（5名、延べ87時間）

山中池南遺跡第2地点 2017年9月25日（3名、延べ16.5時間）

鏡西谷遺跡（樹木伐採） 2017年12月21・22・26日（9名、延べ202.5時間）

山中池南遺跡第2地点 2018年3月26日（6名、延べ24時間）

西ガガラ遺跡第1地点 2018年3月27日（6名、延べ30時間）

e. 震地区：移築復原遺構の説明看板設置

実施期間：2017年12月15日

担当者：藤野次史

委託業者：カジオカ LA

実施内容：2017年3月に実施した震地区広島陸軍兵器補給廠（支廠）関連の移築復元遺構（藤野 2019）について説明板を設置した（写真 64・65）。復元遺構は2013年度に薬学部西側の立体駐車場建設に先立つ発掘調査において検出した建物遺構の柱礎石、扉軸受け基礎である。



写真 64 説明板取付けの様子



写真 65 新規説明板(左)と移設・復元遺構(奥)

3) 遺跡・遺物の整理・貸出利用等

a. 遺物の整理

これまでの発掘・試掘・立会調査において、多くの遺物が出土しているが、未整理のものや未報告の資料が存在する。実測図やトレース図などの調査図面や写真などにも、記録情報が欠如しているものや未整理のものがあり、それらの整理を継続して実施している。本年度の遺物整理としては、以下の作業を行った。

- ① 鴻の巣遺跡、ぶどう池遺跡第1地点、ぶどう池遺跡第2地点、山中池南遺跡第2地点の調査図面整理
- ② 2016年度立会・試掘出土資料の洗浄、ナンバリング、接合、データ入力、収蔵等
- ③ 陣が平西遺跡ほかのネガ・フィルム（35mm、120mm）の整理および、鴻の巣遺跡、山中池南遺跡第1地点、山中池南遺跡第2地点ほかのカラー・スライド整理
- ④ 出土鉄製品の所蔵一覧の作成、脱酸素剤の入れ替え
- ⑤ 山中池南遺跡第2地点1号住居跡および須恵器焼成窯跡灰原採取土資料からの鍛造剥片等の鍛冶関連微細遺物の抽出作業

b. 資料の貸し出し・利用

貸し出し等の出土資料の活用としては、以下の内容について実施した。

- ① 霞地区出土遺物の展示 場所：医学資料館、利用日：2017年5月17日
- ② 霞地区出土遺物の展示 場所：瀬野公民館・牛田公民館、利用日2017年7月6日～8月5日、8月12日～9月3日
- ③ 公益財団法人放射線影響研究所 2017 オープンハウスにおける展示ケースおよび架台（貸出） 借用者：公益財団法人放射線影響研究所 2017 オープンハウス実行委員会、期間：2017年7月28日～8月7日
- ④ 西ガガラ遺跡第1地点・第2地点、山中池南遺跡第2地点出土旧石器時代遺物の見学 見学者：中村由克（明治大学）、見学日：2017年10月4日～6日
- ⑤ 霞地区出土煉瓦ほかの見学 見学者：井畝良太（立命館大学学生）、見学日：2017年11月10日
- ⑥ 平木池遺跡出土石鏃の展示（貸出） 借用者：広島県立歴史博物館、期間：2017年4月1日～2018年3月31日

4) 遺跡と遺物の利活用・社会貢献・普及教育活動

a. GSC（グローバル・サイエンス・キャンパス）事業協力（2017年7月23日）

平成29年度アジア拠点広島コンソーシアムによるGSC構想事業(GSC広島)のステップステージ第1回セミナーの一環として、高校1・2年生28名に対して講義と実習をおこなった。講義は「博物館の研究と業務」と題して、博物館で取り扱う資料のうち、遺跡から出土した資料の種類やその研究（特に関連する科学分析研究）について紹介した。また、実習では、木製品の保存処理作業（保存処理液の入れ替え）を体験してもらい、博物館で行われている様々な作業や研究への興味付けを行った。

b. ワークショップ「夏の青空 考古学・楽 体験広場」(2017年7月25日～8月30日：延べ21日間)

自らの手で作り、考え、想像する体験を通して、昔の人たちの歴史や暮らし、文化、技術を学んでもらうための考古学ワークショップを開催した。体験できる内容として、①土器・埴輪づくり、②勾玉・管玉づくり、③鹿角アクセサリーづくり、④発掘調査の疑似体験を用意した。計168人の参加があった。



写真 66 ワークショップのチラシ



写真 67 土器づくりの様子



写真 68 勾玉づくりの様子



写真 69 疑似発掘体験の様子

c. 親と子の体験歴史村（2017年7月29日）

東広島市との共催事業として「第34回親と子の体験歴史村」を開催した。共催として実施する9回目となる。午前中は、体験その1：鴻の巣南遺跡と部門展示室を交互に見学し、その後、体験その2：土器づくりを行った。昼食時には展示室でのクロスワードパズルや発掘調査疑似体験を楽しんだ。午後は、体験その3：総合博物館本館見学と火おこし体験を交互に体験し、最後に体験その4として勾玉づくりを行った。毎年暑い中ではあるが、親子で最後まで色々な体験を楽しんでいた。参加者は67名であった。



写真 70 展示室見学の様子



写真 71 土器づくりの様子



写真 72 発掘調査疑似体験の様子



写真 73 火おこし体験の様子

d. 第 61 回フィールドナビ「ががら山の遺跡と自然探検」(2017 年 9 月 30 日)

東広島キャンパスに所在する遺跡の保護活用および地域の文化や歴史への理解を深めるための遺跡巡りを、技術センター（植物管理室）と協力して実施した。コースはががら山にある 3 つの遺跡、山中池南遺跡第 2 地点、山中池南遺跡第 4 地点、鏡西谷遺跡を巡るもので、途中には植物観察や里山について学びながら自然散策を楽しんだ。また、鏡西谷遺跡では、眺望がきく高台で昼食をとり、整備事業として実施している芝の移植を体験するなどした。

ががら山にはいくつか遊歩道があり、植物管理室によって継続的に整備されており、山中池南遺跡第 2 地点から山中池南遺跡第 4 地点へと抜けるルートや、鏡西谷遺跡から下山（放射光科学研究センターに至る）するルートは、今回初めて遺跡を巡るフィールドナビで利用した。今後も、複数のルートを設定して遺跡と自然の学びに活用したい。



写真 74 第 61 回フィールドナビのチラシ



写真 75 山中池南遺跡第 2 地点見学の様子



写真 76 自然探検の様子



写真 77 鏡西谷遺跡での集合写真

e. 中学生職場体験（2017年10月4日）

広島県立広島中学校の3年生3名の職場体験受け入れを行った。今回は、遺跡を保護し、その活用のために進めている整備事業を体験してもらった。鴻の巣南遺跡において遺構（竪穴住居跡）の復元整備や解説版の設置状況を見学し、その後、鏡西谷遺跡において法面保護のための芝張り作業（ティフブレアのピット苗の移植）を行ってもらった。



写真 78 鴻の巣南遺跡見学の様子



写真 79 鏡西谷遺跡芝張り体験の様子

f. 土器覆い焼き実験（2017年11月30日～12月1日）

これまで実施してきた土器づくりの焼成は業者に委託して行っていたが、今後この過程も事業内に組み込むため、覆い焼きを試行した。方法については、山口大学埋蔵文化財資料館が毎年公開授業で実施している焼き方に習い、埋蔵文化財調査部門前庭で実施した。



写真 80 藁を敷き、薪と土器を並べる様子



写真 81 藁で覆い、周りに土を貼り付ける様子



写真 82 火入れの様子



写真 83 焼き上がりの様子

g. 第 4 回文化財保護に関する講演会「文化財はみんなのもの～先人の知恵に学ぶ保存と修復～」(2017 年 12 月 21 日)

学生や教職員および地域住民に対して、文化財保護法の周知と文化財に対する理解を深めるための講演会を実施した。第 4 回目として、公益財団法人広島県教育事業団埋蔵文化財調査室前室長の伊藤実氏を講師に招き、「文化財はみんなのもの～先人の知恵に学ぶ保存と修復～」と題して、文化財の保存と修復について学んだ。参加者は 30 名であった。



写真 84 講演の様子



写真 85 第 4 回文化財保護講演会のチラシ

2. 2017（平成 29）年度の教育活動

1) 学芸員資格取得特定プログラム

藤野次史 博物館概論
博物館経営論
博物館資料論（3 回分を担当）
博物館実習 1（8 回分を担当）
博物館実習 2

2) 教養教育

藤野次史 東広島キャンパスの自然環境管理（1 回分を担当）

3. 2017（平成 29）年度の個別研究活動

《藤野次史》

（著書・論文・成果報告）

藤野次史・山手貴生 2018 年 3 月「山口県周南市細野遺跡出土の旧石器時代石器」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第 9 号

（研究発表・講座）

中村由克・藤野次史 2017 年 7 月 1・2 日「流紋岩・凝灰岩石材の岩石学的検討—広島県西条盆地の高田流紋岩類—」2017 年度日本旧石器学会、場所：慶應義塾大学

藤野次史 2017 年 5 月 26 日「広島県における近年の調査、保存活動について」2017 年度日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会、場所：東京都立正大学西巢鴨キャンパス

藤野次史 2017 年 7 月 15 日「広島県における最近の埋蔵文化財調査例と調査・研究の課題」日本考古学協会埋文委中国連絡会、場所：岡山理科大学

（その他：依頼・協力・資料調査など）

島根県原田遺跡出土旧石器時代石器群の調査、島根県埋蔵文化財調査センター、2017 年 4 月 21 日

伊予市東峰遺跡調査指導、伊予市教育委員会発掘調査現場、2017 年 5 月 22 日

博物館展示に関する資料調査、山梨県立博物館、2017年5月29日
亀井城跡調査指導、大竹市広島県教育事業団調査現場、2017年5月30日
東京都恋ヶ窪東遺跡旧石器時代石器群の資料調査、国分寺市教育委員会、2017年7月3日
島根県原田遺跡出土旧石器時代資料の調査、島根県埋蔵文化財調査センター、2017年8月25日
西条盆地周辺石器石材分布調査、東広島市、竹原市内、2017年10月7日 *中村由克（下仁田自然館）、稲村秀介（庄原市教育委員会）と同行
鹿児島県天神段遺跡調査指導、鹿児島県埋蔵文化財調査センター、2017年10月12・13日
愛媛県高見Ⅰ遺跡出土遺物整理指導、（公財）愛媛県埋蔵文化財センター、2018年1月11日
（公財）広島県埋蔵文化財調査室調査指導委員
2017年11月30日：福山市夕倉遺跡調査指導、広島県埋蔵文化財調査室発掘調査現場
2018年2月22日：福山市鞆雁木発掘調査指導、広島県教育文化財団発掘調査現場
広島県文化財保護審議委員
（公財）広島市文化財団調査指導委員
2017年8月9日：四本寺2号古墳調査指導、（公財）広島市文化財団調査現場
2018年3月7日：広島市中小田古墳群ほか調査指導、（公財）広島市文化財団発掘調査現場
岩国市文化財審議委員
庄原市博物館・資料館運営協議委員

《石丸恵利子》

（著書・論文・成果報告）

石丸恵利子 2017年6月「古屋敷遺跡B区から出土した動物遺存体」『古屋敷遺跡（B区）』一般国道9号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター編 国土交通省松江国道事務所・島根県教育委員会 90 - 99頁

石丸恵利子 2017年9月「麓Ⅱ遺跡から出土した動物遺存体」『麓Ⅱ遺跡 坂本谷遺跡

京田遺跡（1区）』一般国道9号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財
発掘調査報告書1 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター編 島根県教育委員
会 127 - 130 頁

石丸恵利子 2017年12月「京田遺跡3区から出土した動物遺存体」『のの子谷横穴墓
群・京田遺跡3区』一般国道9号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財
発掘調査報告書3 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター編 島根県教育委員
会 83 - 89 頁

石丸恵利子 2018年3月「松江城下町遺跡における動物資源利用」『松城下町遺跡 第
1ブロック（殿町198-7外） 第13ブロック（南田町108-1外） 第14ブロッ
ク（南田町101-21外） 第16ブロック（南田町130-6外・134-1外）総括編』
城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡発掘調査報告書8、松江
市文化財調査報告書第185集、島根県松江市教育委員会・公益財団法人松江市
スポーツ・文化振興財団、185 - 192 頁

石丸恵利子 2018年3月「高松城跡（高松北警察署）出土の動物遺存体からみた上級
武士の動物資源利用」『高松城跡』香川県警察高松北警察署建設工事に伴う埋
蔵文化財発掘調査報告書、香川県教育委員会、香川県埋蔵文化財センター編、
133 - 169 頁

石丸恵利子 2018年3月「丸亀城跡（大手町地区）出土の動物遺存体と資源利用について」
『丸亀城跡（大手町地区）』高松地家裁丸亀支部庁舎新営工事に伴う埋蔵文化財
発掘調査報告、香川県教育委員会・最高裁判所、香川県埋蔵文化財センター編、
170 - 183 頁

石丸恵利子 2018年3月「宮ノ遺跡第6・7次発掘調査における出土動物遺存体」『愛
媛県越智郡上島町 宮ノ浦遺跡Ⅲ - 第6次・第7次発掘調査報告 - 』愛媛大学
法文学部考古学研究室報告14、愛媛大学法文学部考古学研究室・愛媛県越智
郡上島町教育委員会、79 - 86 頁

丸山真史・石丸恵利子・久保和志 2018年3月「三谷遺跡出土の動物遺存体」『三谷遺
跡 - 徳島市佐古配水場施設建設工事に伴う発掘調査 - 本編分冊・自然遺物編』
徳島市教育委員会、1-46 頁

（研究発表・講座）

石丸恵利子 2017年5月17日「広島大学の埋蔵文化財の調査について」市民・被爆

者が主役の講座『ヒロシマの理解・被爆者支援の実相と課題』（広島大学平和科学研究センター等協賛事業） 場所：広島大学霞キャンパス *医学資料館にて展示解説あり

石丸恵利子 2017年7月20日「遺跡の科学分析で分かる昔の暮らしー環境考古学の話ー」 東広島市地元学講座“おとなの放課後 Part.4” 東広島市教育委員会生涯学習課主催出前講座 場所：広島大学東広島キャンパス

石丸恵利子 2017年7月23日「博物館の研究と業務」(講義)、「木製品保存処理作業」(実習)、GSC (グローバル・サイエンス・キャンパス) 場所：広島大学教育学部

石丸恵利子 2017年8月21日「広島大学構内から出土した遺物が語る戦時中の暮らし」 牛田公民館講座「掘り出された広島の戦争遺跡」 場所：牛田公民館

石丸恵利子 2017年9月1日 「平城貝塚から見る暮らしを支えた動物資源」 愛媛県愛南町生涯学習講座「愛南なんでも講座」 場所：愛南町御荘文化センター

石丸恵利子 2017年10月28日「遺跡の動物骨が明らかにする歴史文化と環境ー縄文人の暮らし・近世城下町の食文化ー」 日本解剖学会第72回中国・四国支部学術集会 会場：広島大学霞キャンパス *特別招待講演

石丸恵利子 2018年1月28日「動物遺存体の同位体分析について - 動物資源利用をとらえる - 」「人骨出土例による縄文社会論の考古学・人類学・年代学的再検討」 共同研究発表会 会場：国立歴史民俗博物館

石丸恵利子 2018年2月24日「邪馬台国時代の食糧事情ー弥生時代の遺跡から出土する動物遺存体の分析 - 」「ひろしま考古学講座VI - 発掘から推理するIII - 「邪馬台国時代の考古学」(第5回) 場所：広島県立総合体育館

(外部資金・共同研究)

科学研究費 基盤研究 (C) 課題番号 263503760A 「近世城下町の資源利用と文化・流通に関する動物考古学および同位体考古学的研究」 研究代表者

科学研究費 基盤研究 (C) 課題番号 16K020420B 「発掘人骨の古病理学的ストレスマーカーに見える性別役割」 (研究代表者：岡本(藤澤)珠織) 研究分担者

平成 29 年度総合地球環境学研究所同位体環境学共同研究 「遺跡から出土する動物遺存体の産地判別と環境データの構築」 研究代表者

平成 29 年度人間文化研究機構国立歴史民俗博物館 「人骨出土例による縄文社会論の考古学・人類学・年代学的再検討」 (研究代表者：山田康弘) 共同研究員

(その他：依頼・協力・資料調査など)

高松城跡出土動物遺存体資料の分析 香川県埋蔵文化財調査センター 2017年4月
24日

出雲湖陵道路建設に伴う埋蔵文化財(京田遺跡)発掘調査に係る動物遺存体分析
2017年5月15日：出雲弥生の森博物館(出雲市市民文化財課)

2018年3月19日：広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門

奈良文化財研究所文化財レスキュー資料保管状況管理調査の協力 広島大学総合博物
館埋蔵文化財調査部門 2017年6月2日

城山北公園線都市計画街路事業に伴う松江城下町遺跡出土動物遺存体資料の調査・鑑
定・分析、公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団 埋蔵文化財課事務所、
2017年6月26日・27日・2017年7月31日～8月1日

葛西臨海水族園特別展示「うなぎのつかみどころ」への協力 葛西臨海水族園 会期：
2017年7月20日～11月28日

愛媛大学宮ノ浦遺跡第7次発掘調査現地調査 愛媛県上島町宮ノ浦遺跡発掘調査現場
2017年8月18日

なつめの木貝塚および南草木貝塚出土資料の調査(共同研究) 香川県埋蔵文化財セ
ンター・観音寺市郷土館 2017年8月24日 *田嶋正憲氏に(岡山市教育委
員会)同行

丸亀城跡発掘調査整理作業にかかる動物遺存体分析 香川県埋蔵文化財センター
2017年9月15日

一般国道9号(出雲湖陵道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(京田遺跡)にか
かる動物遺存体分析(島根県教育庁埋蔵文化財調査センター) 広島大学総合
博物館埋蔵文化財調査部門 2017年9月20日